

平成11年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者名簿  
(五十音順)

[ 個人 ]

いたはら まさみ  
板原 正美 (広島県尾道市)  
ふくだ ともよし  
福田 具可 (群馬県吾妻郡中之条町)

[ 団体 ]

いけだちょうはな かい  
池田町花とふれあいの会 (香川県小豆郡池田町)  
きょうとみどり しょうねんだん  
ガールスカウト京都緑の少年団 (京都府京都市)  
かまいししがわちいき ふくしすいしんきょうぎかい  
釜石市小川地域福祉推進協議会 (岩手県釜石市)  
かみはやし みどり しょうねんたい  
上林ささゆり緑の少年隊 (愛媛県温泉郡重信町)  
ごてんぼしはな かい  
御殿場市花の会 (静岡県御殿場市)  
つづれこがわ か かい  
綴子川花だんの会 (秋田県北秋田郡鷹巣町)  
てんどうしみどり しょうねんだん  
天童市緑の少年団 (山形県天童市)  
どうじんいやくかこうかぶしきかいしゃ ふくしまだい に こうじょう  
同仁医薬化工株式会社 福島第二工場 (福島県双葉郡大熊町)  
なるせちょう じっこういいんかい  
鳴瀬町フラワーロード実行委員会 (宮城県桃生郡鳴瀬町)  
にちはちょうれんごうふじんかい  
日原町連合婦人会 (島根県鹿足郡日原町)  
にほん かぶしきかいしゃ ひじこうじょう  
日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 日出工場  
(大分県速見郡日出町)  
ひみしかゆうかい  
氷見市花友会 (富山県氷見市)  
みさとむらりんぎょうけんきゅう  
美里村林業研究グループ (三重県安芸郡美里村)

[ 学校 ]

うえそんりつうえむらちゅうがっこう  
上村立上村中学校 (熊本県球磨郡上村)  
かりやしりつ しょうがっこう  
刈谷市立かりがね小学校 (愛知県刈谷市)  
さのしりつあかみちゅうがっこう  
佐野市立赤見中学校 (栃木県佐野市)  
とうえいちょうりつあわしろしょうがっこう  
東栄町立粟代小学校 (愛知県北設楽郡東栄町)

[ 地方公共団体 ]

くしがたまち  
櫛形町 (山梨県中巨摩郡櫛形町)  
しんしのつむら  
新篠津村 (北海道石狩郡新篠津村)  
たいわちょう  
大和町 (宮城県黒川郡大和町)  
たっこまち  
田子町 (青森県三戸郡田子町)  
ひめじし  
姫路市 (兵庫県姫路市)

[個人]

氏名	<p>いたはら まさみ 板原 正美</p>
住所	<p>広島県尾道市</p>
功績の概要	<p>同氏は教師として在職した尾道市立筒湯<small>つつゆ</small>小学校において、同校の5・6年生を対象にした緑の少年団の結成に尽力し、昭和53年の結成以来現在まで顧問として緑の学習会等の講師を努め活躍している。</p> <p>また、昭和50年から尾道市浄土寺山の樹木に名札を付けて利用者の便宜を図るとともに、松くい虫被害により松がほとんどなくなった同山において、森林組合で種から発芽させ育成した「中国の馬尾松<small>ばびしょう</small>」の苗木を緑の少年団とともに植樹している。</p> <p>昭和53年4月に、尾道市東尾道緑地公園で開催された広島県春の植樹祭に緑の少年団を引率して参加したのをはじめ、毎年夏に県民の森、もみのき森林公園で開催される広島県緑の少年団交流集会に参加して、少年団に植物の名前等の指導を行い、緑の大切さを教えている。</p> <p>昭和63年に植物について勉強する「自然に親しむ会」を発足させた。現在、同会の会員は210名で、毎月、野山歩き、植物観察等を行うとともに、年2回、植物観察会、バードウォッチング等を県内各地で行っている。</p>

[個人]

氏名	<p>ふくだ ともよし 福田 具可</p>
住所	<p>群馬県吾妻郡中之条町</p>
功績の概要	<p>同氏は、毎月第一日曜日を「花の里づくりを進める日」として定め、街道や河川沿岸での花づくりに取り組み、地域における「花のまち・里づくり」の活動の中心的役割を果たしている。</p> <p>地域住民と一緒に、年間における地域ごとに植栽する花や草木の種類を選定や育成指導を行い、花づくりと環境美化の地域拡大に努めている。</p> <p>これまで歴任した小・中学校をはじめとして、3月まで勤務していた原町小学校においても、「花と緑のまちづくり」による情操教育に情熱を傾注し、学校花壇の設置を普及するとともに、教室ごとに花飾りを奨励し、花の種子・苗の供給により、地域との交流を図り、県内各地の「花のまちづくり運動」の組織化を積極的に取り組むなど緑化推進活動に大きく貢献している。</p> <p>また、自宅周辺の沿道や石垣などでの花づくりは30年近くに及び、山林での山野草の保護増殖に努めるなど自然環境保全にも尽力されており、これらの功績により平成10年の「みどりの感謝祭」において、花いっぱい運動の代表者として苗木と花の特別贈呈を受けるなど、長年にわたって緑化活動の推進に努めている。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>いけだちょうはな <span style="float: right;">かい</span> 池田町花とふれあいの会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>香川県小豆郡池田町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 八木 武</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、「美しさと潤いのある町づくり」をキャッチフレーズに、住んでよく訪ねてよい町づくりを目指して、平成5年から町の花いっぱい運動を推進し、花を利用した環境美化に取り組んでいる。</p> <p>同会の活動者数は140名であり、各地域ごとに自治会、婦人会、老人会、子供会等を組織し、花壇の設置や花の町づくりに関して、自主的な活動を展開している。</p> <p>同会には、婦人を中心とした育苗部「コスモスの会」が結成されており、花苗の育成及び供給を担い、地域の花いっぱい運動の中核的役割として果たしている。</p> <p>また、毎月1回「花講座」を開催し、花に対する知識・技術の習得を図るとともに、町民の緑化に対する意識の向上や心配り等の情緒的涵養に努めるとともに、町内の公共施設や各種イベント会場への飾り花の設置や幼稚園、小・中学校へ苗を供給している。</p> <p>同会のこうした活動により、同町においては、道路沿いの花壇のみならず、各家庭の庭や玄関等身近なところへ緑化活動の輪が広がっている。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p style="text-align: center;">きょうと みどり しょうねんだん</p> <p>ガールスカウト京都緑の少年団</p>
<p>所在地</p>	<p>京都府京都市</p>
<p>代表者</p>	<p>鈴木 初子 ((社)ガールスカウト日本連盟京都府支部長)</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同少年団は、「自然に親しみ、樹木を愛護育成する実践活動を行う」、「健全な心身と、緑を思いやり緑との共生を目指す心を養う」、「社会に役立つ自主的な行動に取り組む女性を育てる」の3つを活動の目的として、11～15歳の児童を対象として昭和60年に結成された（現在69名）。</p> <p>森林の学習活動を行うため、昭和51年に設定された研修林である「スカウトの森」は、同少年団の結成を契機に、従来の学習の場から体験の場として利活用されることとなり、同少年団が管理主体となって下刈り、つる切、枝打ち、間伐等の育林活動を積極的に展開し、山林作業の必要性とその苦労を学びつつ、森林の機能に対する理解を深めている。</p> <p>さらに、研修林を中心とした地域においてパトロールを実施し、山林火災の予防や散乱ゴミの監視等を通して、環境問題に対する認識を深めている。</p> <p>また、福祉施設において、植樹を行うとともに、ボランティアとしての介護等にも積極的に参加し体験することにより、地域社会に貢献し、社会の一員としての自覚を培っている。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>かまいししがわちいきふくしすいしんきょうざいかい 釜石市小川地域福祉推進協議会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>岩手県釜石市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 佐々木 兼吉</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、釜石市が取り組んでいる「花いっぱい運動」に昭和57年から協力し、当地域で取り組んでいる「小川ふれあい農園」の一部（約100㎡）を利用して、約5,000株のマリーゴールドやサルビア等を育成している。4月に農園で巻いて育った苗を7月には「小川町美しい環境のまちづくり」の一環として幼稚園児や小学生とともに鉢に植えかえ、学校や、公共施設、町内会等に無料で配布して、周辺地域の環境美化を図りながら、地域、職場、施設を美しく彩らせている。</p> <p>また、同会は、地域の中央を流れる小川川流域の自然景観を生かすため、地域の全員参加による河川の清掃及びその周辺の草刈り作業並びに小川川沿いの街路樹の剪定作業、空き缶・空き瓶・ゴミ等の回収等を行い、地域の景観美化に努めている。</p> <p>平成7年に「みどりの愛護」功労者建設大臣表彰を受賞した後も、同会はこれを励みとして、より一層の住民の緑化意識の向上や河川愛護思想等の普及に大きく貢献している。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>かみはやし みどり しょうねんたい 上林ささゆり緑の少年隊</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛媛県温泉郡重信町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>上林小学校長 高須賀 康夫</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、緑に囲まれた自然の中で、緑に親しみ、学び、守り育て、互いに進んで奉仕する活動を通じて、心豊かな児童の育成を目的に昭和53年に結成された。</p> <p>主な活動として同隊の位置する重信町の名勝である皿ヶ嶺連峰の登山道に、ヤマモミジ、キンモクセイ等の植樹を毎年10本ずつ20年間の長きにわたり行っている。この地道な作業は、緑化の推進だけでなく、登山者の心を和ませている。</p> <p>また、同町内に多く自生していたササユリが、採集や環境の変化により、現在では、山中の一部に自生するだけとなってしまい、このままでは絶滅のおそれがあるため、同隊は同町内の植物を甦らせようと、発根したササユリを愛好者より譲り受け、同町内の山林に年一回約300本の植栽を行い、学校でも毎年20鉢ずつ、観察を行いながら栽培を続けている。</p> <p>さらに、住民の緑化に対する意識の向上を目的に、一人一鉢運動を行い、同隊で育成したパンジー、サルビア等の鉢を町内の一人暮らしの老人宅に1鉢ずつ、毎年約100鉢配布している。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>ごてんぼし はな かい 御殿場市花の会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>静岡県御殿場市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 勝又 保</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、花と緑を通じた住みよい環境づくりを目的として、平成2年6月に結成された会員数500余名からなる団体であり、結成以来、東名御殿場 I Cや J R 御殿場駅等市内18か所に設けられた公共花壇への草花の植栽、除草作業等を月一、二回行っているほか、「富士山花いっぱいのみちづくりフラワーロード事業」（市内を横切る国道沿い約1,500mにわたってコスモスを植栽する事業）に中核団体として参加している。</p> <p>また、パンジー、マリーゴールド、ハボタン等各季節ごとの花苗およそ80,000株を育成し、市内のほとんどの学校、幼稚園、福祉施設等に無償で配布しており、これらの活動により、市内では各所に四季折々の花がみられ、美しい郷土づくりに寄与している。</p> <p>さらに、同会は毎年「みどりの日」に開催される緑の相談コーナーや花植え教室、苗木の無料配布等が行われる「御殿場市緑化フェア」の企画、運営に深く携わっている。同イベントには、例年3,000名程度の参加者があり、市民の緑化思想の普及啓発に大きく貢献している。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>つづれこがわか <small>かい</small> 綴子川花だんの会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>秋田県北秋田郡鷹巣町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 三澤 孝一</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、昭和59年に全国高校総合体育大会（インターハイ）が、地元秋田県で開催されることとなり、全国からやってくる高校生を花で迎えようと地元老人クラブ、婦人会等が中心となり、地元を流れる綴子川河川敷を利用し、花壇を作ったことを契機に翌年、結成された。</p> <p>この花壇は、延長46m、幅5m、面積230㎡あり、同会は、他団体や地域住民の協力を得ながら整備、補修を行い、主にパンジー、マリーゴールド、サルビア、ビクトリアを植栽し、除草、灌水に至るまで、4月中旬から11月中旬までの約8か月間定期的に管理を行い、周辺住民に潤いとやすらぎを与えている。また、花苗は、老人クラブが経営しているフラワーセンターを利用し、町の花いっぱい推進協議会からの補助を受けながら地域の緑化、美化の推進に貢献している。</p> <p>平成7年に「みどりの愛護」功労者建設大臣表彰を受賞したほか、県内において数々の賞を受賞するとともに、活動を通じて住民の緑化意識の向上に大きく貢献している。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>てんどうし みどり しょうねんだん 天童市緑の少年団</p>
<p>所在地</p>	<p>山形県天童市</p>
<p>代表者</p>	<p>市 長 遠藤 登</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同少年団は、緑の尊さ、美しさ、森林の働き等を学習しながら、豊かな人間性のある社会人になることを目的として、山口小学校の5・6年生の児童を対象（現在85名）に昭和52年に結成された。以来、学校、P T A、地域住民による全面的な支援、協力体制の下に積極的な緑化活動を展開し、数多くの実績を上げており、なおかつ、社会奉仕・地域福祉活動の面でも高い評価を得ている。</p> <p>具体的には、地域に密着した活動として、毎年一人一鉢の花づくりを行い、自分の力で土づくりから花になるまで苗を育てる経験を通して、緑化の大切さと責任感について学んでおり、秋には、団員が育てた鉢が大輪の花を咲かせて校庭や山口地区を彩り、学校、地域の環境緑化に大きく貢献している。</p> <p>また、同小学校の学校林（2か所、計2.7ha）を、環境教育の場や森の恩恵や大切さを教える場所として活用しており、2年に1回、団員やP T Aが参加して下刈りや枝打ちを行い、この作業を通して親子の絆を深め、共通の話題を提供し、子供のみならず親や地域住民の緑化意識の向上をも図っている。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>どうじんいやくかこうかぶしきかいしゃ ふくしまだいにこうじょう          同仁医薬化工株式会社 福島第二工場</p>
<p>所 在 地</p>	<p>福島県双葉郡大熊町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>福島第二工場長 佐藤 一男</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同工場は、平成3年操業開始の医薬品製造工場である。          「緑に囲まれた快適な工場から付加価値の高い高品質の製品の製造と安定供給を行う」という企業理念のもと、工場建設に際しては、ヤマザクラ、アカマツ、スギ、ヒノキ等の自然林を最大限活用できるように建物のレイアウトを工夫するとともに、芝生等の人工緑地をバランス良く配置し、工場敷地の約70%を緑地が占める緑豊かな工場を創出している。</p> <p>また、周辺企業と連携して、地元大熊町のイベントに参加し、町民に花卉を安価で提供するとともにその収益金を奨学金として町に寄付している。</p> <p>さらに、バードウォッチング会場として工場敷地を開放するほか、工場視察等を積極的に受け入れるなど、大熊町のモデル的工場となっており、同工場の緑化への取組が周辺工場等へと波及しつつある。</p> <p>以上のように、同工場の諸活動は地域に密着した緑化の推進や地域コミュニティの活性化に顕著なものがあり、その功績は高く評価されるものである。</p>



[団 体]

<p>名 称</p>	<p>にちはらちょうれんごうふじんかい 日原町連合婦人会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>島根鹿足郡日原町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 下森 華子</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、昭和23年に発足し、日原町24集落6支部で構成され、現在会員数は631名である。</p> <p>昭和53年「くにびき国体」の山岳競技を日原町で開催することが決定したことを契機に、「花のある町づくり」の行動を開始し、町内の道路側面にツツジの植樹、集落毎に草花の植付けをするとともに、挿し木での苗木づくりや草刈り、施肥等の緑化活動推進体制を整えるなど、緑化活動を通して地域の交流と触れ合いを活性化させている。</p> <p>さらに、平成7年からは町のキャッチフレーズである「星のふるさと」にちなみ、天文学用語のコスモスから「コスモスの花街道」づくりをめざすなど緑化活動の推進に積極的な取組を行っている。</p> <p>一方、花のある町づくり募金として、1円玉募金運動の実施や、同会の創立50周年に当たる平成10年には記念事業としてJR日原駅周辺にサクラ、ヤブツバキの植樹をする「花計画」を立てるなど、婦人会ならではの創意工夫と、ユニークな発想で地域緑化の推進力、起爆剤になっている。</p> <p>なお、同会は水質浄化活動やリサイクル活動等、環境対策にも積極的に取り組んでいる。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>にほん かぶしきかいしゃ ひじこうじょう 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 日出工場</p>
<p>所 在 地</p>	<p>大分県速見郡日出町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>日出工場長 梶原 博文</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同工場は昭和48年操業開始の集積回路製造工場である。地球環境の保全のために、緑化活動を積極的に推進し、大気浄化や気象緩和へ貢献するという理念のもと、工場緑化等の諸活動に取り組んでいる。</p> <p>工場敷地内は芝生のほか、サザンカ、サツキ等の列状植栽、ミカン、ツツジ等の低木からなる美しい庭園風の緑地を整備しており、季節感溢れる緑豊かな空間を創出している。また、隣接所有地にも様々な樹種で構成された広大な緑地帯を維持管理しており、敷地内の緑地とあわせて地域住民等に開放され好評を博している。</p> <p>地元小中学校の工場見学、遠足等も積極的に受入れており、先端技術の紹介とともに緑に親しむ機会を提供するほか、所有地内で収穫されたミカン（約12トン）を見童福祉施設等に毎年プレゼントしている。また、隣接所有地内のグラウンド、体育館は地域の社会資本として開放されており、地域社会への貢献度も高い。</p> <p>以上のように、同工場の諸活動は地域に密着した緑化の推進や地域コミュニティの活性化にも顕著なものがあり、その功績は高く評価されるものである。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>ひ み し か ゆ う かい 氷見市花友会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>富山県氷見市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会 長 蔵田 たみ子</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、昭和54年3月の一般国道160号宇波歩道工事完成時に、国道の残地を利用した花壇作りを目的として、花の好きな主婦8人で結成された。</p> <p>当初は土らしいものではなく、砂利、石ころをはじめ、板切れ、空き缶、舗装屑等が散乱する荒地であり、鍬も入らぬ状態であったが、全員で5か月に及ぶ整地作業により、ようやく各自が持ち寄った花の苗や球根の根付けができるようになった。</p> <p>その後も除草、水やり、植え替え等の作業を行い、四季折々の草花を咲かせて、地区住民をはじめ観光客など道行く人々の目を楽しませている。</p> <p>この活動が起爆剤となって、今では地区内10か所に花壇を作るなど、婦人会、老人会をはじめ地域住民に花づくりの輪をが広がり、地域の環境美化に大きな貢献をしている。</p> <p>現在会員は7名であるが、今春より10名が新たに加わり、17名で活動している。</p>

[団 体]

<p>名 称</p>	<p>み さとむらりんぎょうけんきゅう 美里村林業研究グループ</p>
<p>所在地</p>	<p>三重県安芸郡美里村</p>
<p>代表者</p>	<p>会 長 工藤 隆生</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同団体は、林道を中心とした基盤整備の拡充とスギ・ヒノキの優良材生産による農山村経済の向上への寄与を目標に、村内の中核的な山林所有者34名（現在53名）により昭和59年に発足した。以後、地域林業推進のための中核組織として、林業に関する技術の近代化と知識の習得を行い、林業経営全般にわたる研究等の積極的な活動を展開している。</p> <p>具体的には、優良材生産に必要な枝打ち技術の習得、普及を図るため、平成元年度から毎年、枝打ちコンクールを開催しており、平成4年度には、間伐を含めた育林コンクールに拡充し、森林保育の重要性に関わる普及啓発を実践している。</p> <p>毎年、村の文化祭等において、枝打ちロボットや林内作業車の展示、育林作業のパネル展示等を行い、一般住民に対して森林・林業に関わる普及啓発を行い、また、子供たちに森林を身近な存在として親しんでもらうため、毎年1校村内の小学校を訪問し、森林の役割や育て方の話や、グループが提供した材料で三角木馬の製作指導等を行い、子供達の森林愛護意識の醸成に尽力している。</p>

[学 校]

<p>名 称</p>	<p>うえそんりつうえむらちゅうがっこう 上村立上村中学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>熊本県球磨郡上村</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校 長 東 文明</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校は、西日本でも一、二の広さを誇る校地を生かし、昭和25年から5か年計画で約10haの学校林実習地への植林を実施するとともに、昭和42年に学校林が野鳥愛護林の指定を受けたのを契機に巣箱を設置、昭和59年から昭和62年には校門から校舎へと続く150mのプロムナードにサツキ1,300本を植樹、さらに昭和63年に熊本県学校環境緑化推進パイロット校の指定を受けると学校・地域ぐるみで花いっぱい運動や植樹等の緑化推進活動に取り組むなど、長年にわたり美しい花と緑豊かな環境づくりに生徒、職員、保護者等が一体となって取り組んでいる。</p> <p>その長年にわたる取組によって、校門から校舎までの150mのプロムナードにはサクラの並木とサツキの植え込みが続き、校舎周辺にはクス、アオギリ、マツ、カキ、カシ、ウメ等多くの大木や木々に恵まれた環境が整備され、四季折々に生徒ばかりでなく村民の目をも楽しませてくれている。</p> <p>同校は、その後も、土（施肥）づくりから行う「一人一鉢花づくり」や記念植樹、樹木剪定、茶摘み、梅干しづくり等継続した環境美化、緑化推進に積極的に取り組み、生徒及び地域住民の環境美化及び緑化思想の普及啓発に大いに貢献している。</p>

[学 校]

<p>名 称</p>	<p>かりやしりつ                      しょうがっこう 刈谷市立かりがね小学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛知県刈谷市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校 長                      守川 欽二</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校は、昭和46年の開校時には、樹木らしい樹木もなく、緑の環境にも恵まれなかったが、この年の刈谷市の緑化推進都市の宣言を受けて「緑あふれる環境に」を合言葉に現在まで学校環境緑化を推進してきている。</p> <p>とりわけ、近年の取組は顕著であり、平成3年の春から始まった「森森山脈」<sup>もりもり</sup>づくりは、平成4年、平成7年と拡大され、今では運動場を取り囲むほどに延びており、また、平成9年には「フルーツの森」も拡張され、活力ある緑化運動を推進している。</p> <p>さらに、「一人一鉢運動」「一万本さし木運動」「入学記念親子植樹」などの緑をふやす活動や、教科・道徳・特別活動等における「みどりの学習」は、自然に親しみ、自然の仕組みのすばらしさに感動できる子の育成に大きく貢献している。</p> <p>なお、こうした活動は校内にとどまることなく、PTAが実施する緑に親しむための「学区探訪会」、地域の緑化推進と連携する「緑の少年団」、さらには、同校の児童が進学する雁が音中学校で、緑化活動の中心となり、同中学校の全日本学校環境緑化コンクール特選へ大きく貢献するなど、学校・家庭・地域が一体となって、緑とともに生きる子供たちの育成を図ってきている。</p>

[学 校]

<p>名 称</p>	<p>さのしりつあかみちゅうがっこう 佐野市立赤見中学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>栃木県佐野市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校 長 落合 一義</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校は、昭和22年の開校以来「自分たちの学校は自らの手で」を合言葉に、生徒、教職員、保護者、地域が一体となって学校環境整備に尽力しており、現在では、ヒノキの防風林や校庭西の桜並木、梅園等特色ある環境緑化施設の整備がなされ、これら緑化施設は、各教科や梅園活動、緑の少年団活動など各方面で利用されている。</p> <p>特に、平成2年度全日本学校環境緑化コンクール特選受賞後においては、学校教育目標と学校環境緑化活動を関連付け、さらには各学年環境緑化活動の目標を掲げ、全教育課程・全領域に位置付けるなど、環境緑化が日常的な教育活動として計画、実践されている。</p> <p>また、学校内での環境緑化活動にとどまらず、生徒、教職員、保護者が一体となって豊かな地域社会を創造するために地区ごとに設置した「フラワー会活動」を中心に地域住民と連携し、学校内で栽培した苗の校区内の花壇への植栽や国道沿いの環境緑化作業に積極的に取り組むなど、地域一体となった緑化活動を積極的に推進している。</p>

[学 校]

<p>名 称</p>	<p>とうえいちょうりつあわしろしょうがっこう 東 栄 町 立 栗 代 小 学 校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛知県北設楽郡東栄町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校 長 加藤 紘市</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校は、豊かな自然に囲まれた全校児童数28名の小規模校である。</p> <p>林業が盛んな同地域でも高齢化、過疎化が進んでいるが、かえって地域住民は児童・生徒に対する教育に熱心で、山林に関心を持ってもらうことへの期待が大きいいため、山林学習についての理解も深く、大変協力的であり、地域住民と一体となり緑化活動を実施している。</p> <p>同校は、大正10年に設置された学校林（1.8ha）が緑化の実践活動の拠点となっており、山村の昔からの文化・伝統技術を未来に引き継ごうとする住民の助言のもとに整備し、住民と子どもたちが一緒に学校林の下刈り・間伐・枝打ち等の作業を行っている。</p> <p>また、同地域は、林業が主な産業であることから学校林内のスギ・ヒノキを1人1本ずつ選び「ぼくの木・わたしの木」を決め、毎年秋にそれらの成長を測定することにより、山林に対する関心を高めている。この作業を通じ、自然の恵みについて考え、その保護と育成活動を体験学習として実施することが創意と工夫をする人づくりにつながっている。</p>

[地方公共団体]

<p>名 称</p>	<p>くしがたまち 櫛形町</p>
<p>所在地</p>	<p>山梨県中巨摩郡櫛形町</p>
<p>代表者</p>	<p>校 長 石川 豊</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同町では、東洋一といわれるアヤメの大群落が櫛形町に存在することに着目し、昭和44年に町の花として指定し、アヤメの里づくりを推進している。</p> <p>昭和47年より、櫛形山の自然に親しみ健康増進を図ろうとする「アヤメ祭り」を開催し、町内外より多くの人々が自然のアヤメに触れ合っているほか、鉢づくりアヤメ展示会の開催、「アヤメの里くしがた」のシンボルマーク制定、8万株（約40万本）のアヤメが植栽されたアヤメ園を整備するなど、町を挙げてのアヤメの里づくりに努めている。</p> <p>さらに、主要幹線へ街路樹を植栽し、並木づくりに力を入れるとともに、緑化及び防災対策の両面の観点から花壇・生け垣作りを推進するため補助金を平成5年より導入するなどの活動も実施している。</p> <p>なお、アヤメを中心としたまちづくりで重要な役割を果たしているのが昭和61年に結成された「アヤメを育てる会」であり、アヤメの鉢植え作りから40万本が咲き誇るアヤメフェアのアヤメの手入れまでを一手に引き受けており、まさに住民と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいる。</p>

[地方公共団体]

<p>名 称</p>	<p>しんしのつむら 新篠津村</p>
<p>所 在 地</p>	<p>北海道石狩郡新篠津村</p>
<p>代 表 者</p>	<p>村 長 加賀谷 強</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同村は、人口約4千人規模の村でありながら、ふるさと並木造成基金（10年度末：49,657千円）を活用した植樹・補植事業を積極的に行うとともに、自治区・自治会主体で村花であるハナショウブの植栽運動を推進することを通じ、長年にわたり行政と住民が一体となった緑化推進運動に取り組んでいる。</p> <p>また、「グリーン&amp;クリーン運動」と呼ばれる美化運動を自治区・自治会の合組織である明るい村づくり運動推進協議会が実施するなど、その息の長い活動に村民の緑化意識の高さが伺える。</p> <p>主な緑化活動として、中学校生徒による一人一本植樹活動（平成7年～）、石狩川築堤へ合計約1,400本の桜と約500本のつつじの植栽（平成8年～）、地域住民の手による新篠津運河沿いへのドイツトウヒ約1,530本の植樹（平成8・9年）などが実施されており、積極的に緑化推進施策が遂行されている。</p> <p>今後も、ふるさと並木の造成を継続し、幹線道路の緑地帯・防雪林帯の整備をはじめとした緑化推進を継続することとしており、まさに行政と住民が一体となった取組が期待できる。</p>

[地方公共団体]

<p>名 称</p>	<p>たいわちょう 大 和 町</p>
<p>所 在 地</p>	<p>宮城県黒川郡大和町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>町 長      木幡 恒雄</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同町は、全面積22,559haの73%を森林が占め、吉田川流域の多目的ダムである南川ダム及び宮床ダムの重要な水源地帯となっており、ダム建設に際し、県と地権者のパイプ役として水源地対策を積極的に協力している。</p> <p>また、ダムの完成に併せ周辺環境整備を推進しており、平成8年には「みやぎ未来の森林整備」による自然観察教育林（378ha）の整備を完了するとともに、平成9年からは「七ツ森森林公園整備」による森林・林業の実体験の場等の整備（1,938ha）に着手するほか、「七ツ森湖水まつり」の開催や「第4回森林と市民を結ぶ全国の集い」の後援等緑化推進に関する事業の支援等に努めている。</p> <p>さらに、財産区から引き継いだ町有林の計画的造林を始め、昭和52年には吉田中学校の「緑の少年団」の結成や平成7年には「大和町緑化推進委員会」を発足させる等、町民一体となった緑化事業の啓蒙、展開を推進している。</p> <p>このほか、過疎化、高齢化の著しい林業山村における担い手確保のため、林業構造改善事業を実施する等、開発の進む仙台市近郊における林業振興を図り、水資源の保全に積極的に取り組んでいる。</p>

[地方公共団体]

<p>名 称</p>	<p>たっこまち 田子町</p>
<p>所 在 地</p>	<p>青森県水戸郡田子町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>町 長 中村 隆一</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同町は、新産業都市八戸市を抱える馬淵川支流熊原川の水源地域にあたり、下流域の農業用水、上水及び工業用水の供給・確保に大きな役割を果たすとともに、自然環境の保全を図り、水源林の造成を積極的に進め、9,898haの水源かん養保安林を整備している。</p> <p>また、町のシンボルである大黒森町有林を「水源の森」として森林整備を進めるほか、平成4年には、山の東側に「創遊村」を中心とした体験レクリエーション施設を整備し、町民や下流域の市民に広く親しまれている。</p> <p>さらに、町自ら率先して町有林の整備を進め、森林林業推進の町民の模範となっているほか、一般町有林に対して各種補助制度を導入するとともに、林業後継者の確保・養成のため林業研究グループの活動を積極的に支援している。</p> <p>このほか、町内の小学校に緑の少年団を組織し、体験学習を通して緑と水の間係を理解させ、森林を守り育てる緑化意識の向上に努めている。</p>

[地方公共団体]

<p>名 称</p>	<p>ひめじし 姫路市</p>
<p>所 在 地</p>	<p>兵庫県姫路市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>市 長 堀川 和洋</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同市では、身近な自然環境の中で、野鳥、昆虫等の小動物や植物との触れ合いや、これらの観察を通じて自然への理解を深め、自然保護思想の普及及び向上を図ることを目的に、昭和62年に「自然観察の森」を開設した。</p> <p>「自然観察の森」は、総面積約59haに及び、植林後の手入れと下草の関係を観察できる約4.8haのヒノキの植林地や、この地方の典型的なコナラの雑木林を維持保存しており、雑木林の様々な動植物をみることができる市内でも代表的な緑の地域になっている。</p> <p>同市は、「自然観察の森」が、生き物たちの生息や観察に適した環境になるよう高低木の植栽をはじめ、草木の植栽のほか、ネイチャーセンター、自然観察路、観察小屋などの施設の整備等を行い良好な森の環境の維持に努めている。</p> <p>また、この緑豊かな森では、シカやタヌキといった哺乳類をはじめ、様々な昆虫、野鳥等が生息しており、同市では、ミニサンクチュアリを設け約300㎡の敷地に落葉広葉樹や実のなる木を植栽し、緑化と小鳥がさえずる森づくりの推進に努めている。</p>